

## 北里大学病院・北里大学東病院(旧)を受診された患者さんへ

当院では下記の臨床研究を行っています。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお申し出ください。

研究課題名 (受付番号/承認番号)	甲状腺腫瘍患者における管理方針ごとの後方視的臨床解析
当院の研究責任者 (所属・職位)	医学部乳腺甲状腺外科学 准教授 加藤 弘
他の研究機関および 各施設の研究責任者	当院のみでの研究です。
本研究の概要・背景・目的	<p>甲状腺腫瘍の管理方針は時代とともに大きく変遷しています。腫瘍の発見率は頸部超音波検査が導入されることで増加し、以前は発見されなかった微小癌も診断されるようになりました。早期に発見されることで恩恵が得られる患者さんが増加する一方、発見されなければ生涯進行することのない超低リスク癌が診断・手術加療される過剰診断・過剰治療の問題も生じてきています。甲状腺癌の手術加療においては、進行度・リスク分類により、片葉切除/全摘、頸部郭清の程度、術後補助療法をガイドラインで示すことで、患者さんの進行度に応じた手術加療が行われるようになりました。さらに、術中神経モニタリングや内視鏡手術等の導入によりより安全にQoLを重視した治療も行われてきています。また、放射性ヨード内用療法抵抗性分化癌に対する分子標的薬が続々と導入されることで、生命予後改善効果が得られるとともに、症例によっては機能温存手術も可能になってきています。最近では遺伝子パネル検査により、既存治療抵抗性の癌に対する新規治療薬の探索も可能になっており、今後の発展が予測されます。</p> <p>以上のように、甲状腺腫瘍・癌の管理方針・治療は劇的に変化しており、特に手術・術後治療はこの20年間、特に分子標的薬が導入された2015年以降大きく変化していますが、検証が十分でない。各甲状腺腫瘍における診断・治療と予後を評価することで、今後のそれぞれの患者さんの進行度により応じた医療の発展を目指します。</p>
調査データ 該当期間	2001年4月1日から2028年3月31日までの情報を調査対象とします。
対象となる患者さん	2001年4月1日から2023年5月31日までの間に甲状腺・副甲状腺手術のため当院に入院され、手術を施行された患者さん。
研究の方法 (使用する試料等)	<p>利用する情報</p> <p>2001年4月1日から2028年3月31日までの電子カルテに記載のある診療記録、検査データを利用します。</p>
試料/情報の 他の研究機関への 提供 および提供方法	他の機関への情報の提供はありません。
個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者さまを直接特定できる個人情報は削除致します。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

<p>本研究の資金源 (利益相反)</p>	<p>本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。研究にかかる費用は乳腺甲状腺外科学医局研究費を使用します。研究に関する利益相反は、北里大学利益相反委員会で審査を受け適切に管理されます。</p>
<p>お問い合わせ先</p>	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。</p> <p>また、情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究の対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には提供していただいた情報に基づくデータを結果から取り除くことができない場合がありますが、公表される結果には特定の個人を識別することができる情報は含まれません。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:  <b>所属・職位:</b>北里大学病院 乳腺甲状腺外科 准教授  <b>担当者:</b>加藤 弘(カトウ ヒロシ)  <b>電 話:</b>042-778-8111(代)</p>
<p>備 考</p>	